

はじめに

みなさんは、昭和30年(1955)頃まで留萌がニシン漁で栄えていたことを知っていますか。

汽車で深川から留萌に向かってくると、大和田を過ぎたあたりから、ニシンのにおいで街が覆われていたそうです。

毎年3月から6月頃にかけて、留萌の沿岸には多くの建網(※1)が設置され、ニシンが大漁になると学校は休みになり、留萌の子や農家の人たちは、ニシンの加工に借り出されたといわれています。

このニシン漁の期間は、本州などから出稼ぎ(※2)に来た人たちで、街の人口が倍くらいになっていたそうです。

※1 建網

網で魚の通り道をさえぎり、魚を追い込んで獲る漁法。

※2 出稼ぎ

住んでいるところを離れて、ある程度の期間仕事をする事。

月日が流れ、留萌がニシン^{りょう}漁^{りょう}でにぎわっていた当時の
おもかげ^{おもかげ}はほとんど^な無くなってしまいましたが、留萌市礼受
町には国指定史跡^{しせき}「旧留萌佐賀家漁場^{ぎよば}」があり、当時のニ
シン^{りょう}漁^{りょう}の姿^{すがた}を感じることができます。

佐賀家漁場^{ぎよば}をとおして、北海道の主要産業^{しゅうようさんぎょう}(※3)であつ
たニシン^{りょう}漁^{りょう}の歴史^{れきし}を振り返ってみましょう。

かずのこは、
ニシンの子どもだMO～！

かず^{かず}も^もちゃんとは・・・
留萌市が生産量^{せいさんりょう}日本一^{ほこ}を誇る「数の子」を
モチーフとしたマスコットキャラクターです。



かず^{かず}も^も
KAZUMOちゃん

※3 主要産業^{しゅうようさんぎょう}

人々が生活する上で必要^{ひつよう}なものを生み出したり、提供^{ていきよう}したりする活動
の中で、中心となっているもの。